



○ 善行

合い言葉

「小さな挑戦、小さな善行、確かな志 ～自立した大人となるために～」

大きな志

今年度からのスローガ的な学校合い言葉の中に、「小さな善行」というワードを入れています。先日開催された掛合分校の文化祭の生徒会企画クイズの中で、合い言葉を知っているかが問題として出題されました。言い回しが多少違っていることがあったとしても、おおむねみんなが正解だったことに嬉しさを感じました。言い回しの違いとは、「小さな善行、小さな挑戦・・・」という回答が多かったことです。他者への思いやり、気遣いのことが最初に思い出されることに、さらに嬉しく思いました。

10月31日、一畑薬師マラソンに参加しました。新型コロナ感染症拡大の影響もあり、こうした市民マラソン大会の多くが中止となっていたため、ほぼ2年ぶりの大会参加でした。大会の開催には、主催者をはじめ多くの方のご尽力があったと思います。当日は多くのボランティアの方が大会を支えておられ、前日の駅伝大会に出場した平田高校の選手達も手伝っていました。沿道の民家の方々も応援で盛り上げてくれました。

当日は、久しぶりの大会参加で張り切りすぎたこともあって、名物の1000段の階段登りが終わった直後足がつかない、足を引きずり歩きながらのゴールとなりました。それでも10キロの平坦コースの記録とほぼ変わらないタイムでのゴールでした。年齢を重ねても努力に比例して結果の出るマラソンの楽しさを再認識しました。

しんどさと痛さから、ゴール直後はうつむきながら歩き始めていたら、高校生ボランティアの生徒が「お疲れ様でした！」と大きな声でねぎらってくれ、ゼッケンについているタイムチップをはずしてくれました。そこではとなり、振り返ってゴールに向かって帽子をとって一礼しました。いつもゴール後は一礼するようにしているのですが完全に忘れていました。まだまだ意識しないと一礼すら忘れてしまうことに反省する日にもなりました。

男子ゴルフのアジア・パシフィックアマチュア選手権が11月初めにUAEでありました。日本の中島啓太(日体大3年)選手がプレーオフを制して優勝しましたが、優勝の歓喜に浸った直後、ゴルフコースにおかかって一礼したことに、「これぞ日本人」と称賛の声が現地です。私たちは、いつも誰かに支えられて、誰かとつながって生きていることを忘れてはいけないし、だからこそ他者への気遣いや思いやりはとても大事です。「感動、感謝、気遣い」の3Kをいつも意識したいとあらためて思ったところです。

あるテレビ番組で、「愛とは何ですか」と年配の方に聞いていました。ある方は、「最大限の思いやり」と答えていました。ちなみに、マザー・テレサが「愛の反対が無関心」と言ったことはあまりにも有名です。

富山県の日本海の浜辺を起点に北アルプス、中央アルプス、南アルプスの山々を走り抜け、静岡県の太平洋の浜辺まで全長415キロを8日以内に自らの足だけで駆け抜ける日本一過酷な隔年開催の「トランスジャパンアルプスレース(TJAR)」という山岳レースがあります。山々の中には剣岳も含まれています。剣岳は、明治時代に初登頂を争ったことが新田次郎の小説「剣岳 点の記」に描かれたことでも有名な登山自体が難しい山です。そんな山々を走り抜け完走するためには、睡眠も1日2時間程度です。その睡眠もテントで寝たり、道ばたに倒れ込むように寝たりするだけの睡眠です。そんな過酷なレースが今年開催され、テレビ放映もされました。選考会などがあり出場できるのはわずか30人ほどです。しかし、台風の影響で大会史上初めてレース中盤で中止となりました。中止の連絡をスタッフから受けた選手の一人は、2年間の準備と努力やレースの過酷さからか「なんで中止にするのか？」という不満の声を上げていました。しかし、トップを走る選手は違いました。「中止の理由は事故ですか？天候ですか？」が第一声。「天候(台風)です。」との回答に、「それなら良かった。」と答えたあと大会関係者への感謝の気持ちを述べていました。こんな状況下にあっても、またトップを走り一番しんどく悔しいはずなのに、最初に一緒に走る選手や大会関係者に気持ちが向くことに感動しました。